

# 青春パンクについて ~銀杏 BOYZ/ブルーハーツ~

中野 修斗

## 要旨

本論文は、日本のポピュラー音楽における「青春パンク」というジャンルに着目し、THE BLUE HEARTS と銀杏 BOYZ を中心に、その成立背景と表現の変遷を考察するものである。まず、日本におけるパンクロックが欧米とは異なる社会的・精神的文脈のもとで形成されたことを確認し、そこから青春パンクがどのように生まれたのかを整理した。次に、ブルーハーツが提示したシンプルで普遍的な表現と、銀杏 BOYZ が展開した過激で内向的な表現を比較し、両者の歌詞や思想の共通点と相違点を明らかにした。これらの分析を通して、青春パンクが若者の内面的な葛藤や生きづらさを可視化する文化的表現であり、日本社会に固有の感情構造を反映した音楽であることを論じる。

## 目次

### はじめに

### 第1章 日本におけるパンクロック

- 1-1. 日本のパンクロックを考えるための前提
- 1-2. 日本の 1970~80 年代：繁栄の裏に潜む「息苦しさ」
- 1-3. S-KEN スタジオと「東京ロッカーズ」の誕生
- 1-4. 日本型パンク精神の核心：自己疎外
- 1-5. 日本のパンクが抱えていた「二重の意識」
- 1-6. ザ・スターリンと“露悪”という表現
- 1-7. 日本パンクの特徴：ミクロへのまなざし
- 1-8. ブルーハーツ：怒りの普遍化
- 1-9. GOING STEADY～銀杏 BOYZ：日本パンク精神の継承と極端化
- 1-10. まとめ：日本のパンクロックとは何だったのか

## 第2章 青春パンクの源流と特徴

- 2-1. 青春パンクの成立と時代背景
- 2-2. ブルーハーツの音楽的特徴と思想
- 2-3. 青春パンクのスタイルと美学
- 2-4. 青春パンクの拡大と影響

## 第3章 銀杏 BOYZ の位置づけ

- 3-1. GOING STEADY から銀杏 BOYZ へ
- 3-2. 峯田和伸の人物像と表現スタイル
- 3-3. 青春パンクにおける銀杏 BOYZ の独自性
- 3-4. 小括

## 第4章 歌詞比較

- 4-1. 歌詞比較
  - ① リンダリンダ vs BABY BABY 【愛】
  - ② 青空 vs SKOOL KILL 【社会】
  - ③ TRAIN-TRAIN vs ボイズ・オン・ザ・ラン 【疾走】
  - ④ 十四才 vs 十七歳 (Cutie girls don't love me and punk.) 【青春】
- 4-2. 小括

## 結論

## 参考文献